

第32回京都府医療対策協議会開催概要

- 1 日 時 令和2年2月10日(月) 16時30分～18時
- 2 場 所 ルビノ京都堀川「加茂の間」
- 3 出席者 京都府医療対策協議会構成員 17名 (随員6名、傍聴1名)
- 4 概 要 以下のとおり

協議事項1：臨床研修について

[意見等]

- 今まで厚生労働省からの提示数を基本に配分調整していたが、この度内訳が示された。令和7年推計値の9割を基本調整数として、地理的条件、医師派遣実績、小児産科プログラムなどを加算。国の計算の考え方をベースに検討する必要がある。
- 配分ファクターがいろいろあることは理解できるが、これまで地域医療を支えてきた小さい病院の研修医がなくなるようなことは避けてほしい。同じ1名減でも少数の病院は影響が大きい。
- 要望もしたが、これまで付与されていた「医師不足地域への配分5名」がなくなるのは大きな痛手であり、本協議会や市町村と連名で再要望を予定しており、たたき台をお示しするので、ご意見等お願いしたい。

協議事項2：専門研修プログラムについて

[意見等]

- 連携プログラムへの対応として設置予定の「内科専門研修プログラム関係者会議」は、具体的に時期としては4月のプログラム申請前に、参画は内科プログラムを持つ基幹施設を予定
- 地域医療に欠かせない総合診療医が昨年と比べ減っている。自治医大生には総合診療科を積極的に促すなど、何か増やすアイディアはないか。
- 府内には、京都市内とそれ以外の地域の偏在がある。若い医師は都会志向であるが、地域医療を体験することで考え方も変わることもあり、地域医療に従事する機会を増やしてはどうか。

協議事項3：医師確保計画について

[意見等]

- 各圏域の方向性について、医療圏の中核病院が各診療所への支援に加え、在宅機能も担うとなると、体制整備などいろいろ課題がある。
- 各圏域の方向性は、地域の医療提供体制をどうしていくかを医療圏毎に示している。在宅機能はどこが担うかというのは、各地域で議論。表現については主語を明確に修正する。
- 地域医療にとって、自治医や地域卒医師は重要であり、また、人と人とのつながりも大切。委員の皆様には臨床研修医や専門研修医が研修する中で、地域医療の重要性を説いてもらいたい。

<終了>